

APCA「子ども虐待」**基礎講座**のご案内

子ども虐待予防のための基礎知識

7月7日
申込期間延長!!

オンデマンド
配信します

配信：7月11日～8月15日



プログラム 講師

詳しくは裏面を
ご覧ください

- I 虐待はなぜおこるのか：小杉恵氏（大阪母子医療センター子どものこころの診療科主任部長）
- II 虐待かなと思ったら：神田真知子氏（本協会企画専門員、元大阪府子ども家庭センター所長）
- III 子ども虐待についての法的仕組み：中村善彦氏（中村善彦法律事務所 弁護士）
- IV 子ども虐待とアタッチメント：遠藤利彦氏（東京大学大学院教育学研究科教授）
- V 子ども虐待とトラウマ：亀岡智美氏（兵庫県こころのケアセンター副センター長）
- VI 虐待問題にとりくむ人のために：鷲山拓男氏（とよたまこころの診療所長 精神科医）

対象者・定員

- ・子どもと保護者に関わる活動をされている全ての方
- ・子ども虐待の予防に関心のある方 定員：100名

配信期間

2022年7月11日(月)11時～8月15日(月)11時

申込み受付期間

2022年6月 1日(水)13時～7月7日(木)11時

受講料

APCA正会員:4,000円 賛助会員・非会員:12,000円

申し込みサイト
『こくちーず』QRコード



申込方法

受講をご希望の方は、右上のQRコードを読み込んで、**申込サイト『こくちーず』** <https://www.kokuchpro.com/event/kiso/> から申し込んでください。申し込みの受付ができれば数分以内に『こくちーず』から「申込み完了メール」が届きます。

受講料の支払い方法は、申込受付サイト『こくちーず』からメールでご案内します。ホームページ<https://www.apca.jp>からも同じ方法で申し込めます。組織や公費での受講も受付けています。*ご不明な点は、下記【APCA】までお気軽にお問い合わせください。



主催：認定NPO法人 児童虐待防止協会【APCA】

電話：06-6646-4858 FAX：06-6646-4884

Email：manabi-i0189@apca.jp

APCA=The Association
for the Prevention
of Child Abuse & Neglect

APCA 『子ども虐待基礎講座』
ご案内



この講座の内容は、子どもの虐待予防についての基本的な内容です。そして子どもと保護者に関わる立場のすべての人に知っておいて欲しい内容です。社会のすべての人が子ども虐待について共通した理解を持ち、子ども虐待を起こさない世の中を目指すための一つとして開催しています。

講師の先生は、日々のご自身の実践や皆様からの感想をもとに毎年講義内容を工夫してお話しをして下さいます。そのため最近関心をもたれた方や活動を始められた方はもちろん、すでに支援者として実践されている方もご自分の知識の整理や他の領域について学ぶ機会としてぜひ活用ください。

以下は、昨年の講義内容からの抜粋と参加者の感想の一部です。

APCA基礎講座 昨年の講義から・・・

昨年の参加者の感想から・・・

講座Ⅰ：虐待はなぜ起こるのか 小杉恵氏

- ・子ども虐待とは
- ・子ども虐待の視点を整理する
- ・支援のための3ステップ
- ・しつけとは何か
- ・虐待に至る要因
- ・予防プログラム
- ・虐待を受けた子どもたちの育ちについて
- ・私たちに出来ること、支援について
- ・子ども虐待に取り組む目標 他

【感想】虐待の基本的な知識等を知る事ができました。

・虐待のおこる仕組み、実際の事例から現場がどのように対応しているのか詳しく学んだ。

・全般にわたりご講義頂きありがとうございました。文献もご紹介くださり調べてみました。先生のお話をより深めて理解していきたいと思います。信じていいんやな・・・が印象に残りました。

【講師から】「あくまでも・・・子どもの命と権利を守るために！」

講座Ⅱ：虐待かなと思ったら 神田真知子氏

- ・子ども虐待の状況と対応の仕組み
- ・虐待対応の流れ：虐待の発見・通告、発見（通告）後の対応～子どもの安全確認、家族のアセスメント、親子の支援のためのアセスメント、家族への支援、事例の進行管理
- ・支援者のメンタルヘルス(バーンアウト防止等) 他

【感想】具体的な事例も多くイメージしやすかったです。

・要対協の開催の仕方等、地域で役立つお話でした。
・経験豊かな方から大阪の具体的な事例について聞いてよかった。普段では知ることができない内容で貴重なお話でした。

【講師から】「身近な大人が、子どもに真摯に関わっていくことが、子どもの人生に希望をもたらし、虐待の世代間連鎖を防ぐ力になる」

講座Ⅲ 法的仕組み 中村善彦氏

- ・虐待通告の意義 1つの機関で抱え込まず他(多)機関で連携することの端緒となる
- ・通告か相談か：市町村・児相による調査、児相よる子どもの一時保護、施設入所・里親委託 他

【講師から】「子ども虐待への対応は、子どもの安心・安全を守るためのものであり、保護者の責任を追及するものではない」

【感想】法的な仕組みから支援で気をつける点を講義いただいたので、大変勉強になりました。事例を交えてのお話がわかりやすくもっとお話が聞きたかったです。時間が足りなかったのが残念でした。

・法的根拠からの切り口で、たくさんのことを教えていただきとても勉強になりました。

講座Ⅳ 子ども虐待とアタッチメント 遠藤利彦氏

- ・見直されつつある「乳幼児期」「非認知」の重要性
- ・アタッチメントと『安心感の輪』
- ・「安全な避難場所」としての大人の役割
- ・アタッチメントと不適切な養育・虐待 他

【感想】アタッチメントの意味をしっかりと理解できた。とてもよくわかりました

・アタッチメントの重要性は理解していたつもりでしたが、具体的にどう言った影響がどのように表出するのかを改めて知る機会となりました。心理の相談員として仕事をしているので、紹介していただいた文献なども目を通して学びを深めたいと思いました。

講座Ⅴ 子ども虐待とトラウマ 亀岡智美氏

- ・トラウマティック・ストレス(心的外傷)とは
- ・トラウマとしての虐待
- ・トラウマの中長期的影響
- ・トラウマインフォームドケア(TIC)の考え方 他

【感想】とても丁寧で具体的なお話でした。トラウマ体験のある方についてどのように対応すれば良いのか、回復に向けたアプローチというところまで話していただけたので参考にしたいです。

講義Ⅵ 虐待問題にとりくむ人のために 鷺山拓男氏

- ・親への援助者に求められるもの
- ・虐待の社会的背景と母性神話
- ・虐待する親への援助の目標は何か 他

【感想】どうしても虐待と聞いたら親が悪いと思っていたが社会全体で考える問題だと知れた。背景を知り、どういった支援が必要か、ハイリスクな家庭の親は自分から助けを求めないことを知り、自らコミュニケーションをとり知ることが必要だと思った。

【講師から】「善意」はしばしば有害である。「熱意」は非常に危険である。「正義」はもっと危険である。